

# 公安委員会定例会議(第30回)の開催状況

第1 日 時 令和5年11月22日(水)  
午後2時06分 ~ 午後3時31分

第2 出席者 五葉委員長、佐伯委員、小野委員  
本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長  
刑事部長、交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長  
総務課長

## 第3 議事の概要

### 1 小野委員説示

11月1日は計量記念日でしたので、本日は、計量の歴史と近代計量技術についてお話ししたいと思います。測量技術の進歩と測量機器の発展は、科学技術の進展とともに進歩し、地図作成、建築、災害対策など、様々な分野に影響を与えてきました。江戸時代、幕府による国家プロジェクトとして伊能忠敬による全国測量が行われたことは有名ですが、六分儀などの新たな機器を導入して完成させた精密な地図が、伊能の死から数十年後、西洋の大国を驚かせたことはさらに有名な話です。

製造業においては、19世紀初頭まで手動測定で、手工具や定規による簡単な測定であったことから、小規模で均一性が確保されにくい状況でした。

20世紀初頭、製造業の測定が大きく変わります。マイクロメーターやノギスの手動機器から自動測定機器への転換が進み、生産効率が向上し、測定精度が大幅に向上しました。1960年代には、三次元測定機の登場が品質管理を革新し、製品設計に新たな次元をもたらしました。1980年代以降は、コンピュータ制御とデジタル技術の進化によって、より高度で複雑な測定が可能となり、データの取得と分析が効率的に実施されるようになり、2000年代に入ると、非接触測定技術の普及が進み、レーザースキャニングや光学式測定機器が導入され、製造プロセスが向上しました。このほか最近では、車社会と切り離せないGPS、山肌を透視し地表を計測することのできる測量ドローン、覗くだけで距離が計測できるレーザー距離計、携帯電話を使い手軽に測定ができるLiDAR技術などが開発され、国土の管理や都市計画、環境保護など、様々な分野において精密で効果的な測定が行われており、今後も新技術の導入が期待されます。

県警察においても、最新機器を積極的に導入し、テクノロジーの力を活用した迅速かつ効率的な業務の推進や捜査力の向上に取り組んでいただくことを期待します。

### 2 決裁事項

#### (1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和5年第29回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

#### (2) 各留置施設に対する実地監査の結果

警務部から、各留置施設に対する実地監査の結果について伺いがあり了承した。

(3) 禁止命令等実施報告

生活安全部から、禁止命令等実施報告について伺いがあり了承した。

(4) 社交飲食店に係る不利益処分に伴う聴聞の実施結果

生活安全部から、社交飲食店に係る不利益処分に伴う聴聞の実施結果について伺いがあり了承した。

(5) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取・聴聞

交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果、14件の行政処分の決定について伺いがあり了承した。

### 3 報告事項

(1) 令和6年愛媛県警察運営目標の策定

警務部長から、令和6年愛媛県警察運営目標の策定について報告があった。

委員から、「未来へつなごう 安全・安心 愛顔のえひめ」は、とても良い運営指針だと思う。運営目標の達成に向けて県警察一丸となって頑張っていたいただきたい」との発言があった。

委員から、「暴力団の勢力や活動は、匿名・流動型といわれる犯罪グループの台頭と相まって実態が見えにくくなっている。引き続き徹底した取締りに努めていただきたい」との発言があった。

(2) 松山市郊外における覚醒剤営利目的製造事件被疑者の検挙

刑事部長から、松山市郊外における覚醒剤営利目的製造事件被疑者の検挙について報告があった。

委員から、「関係者が広範囲で多数いることから、引き続き捜査を徹底し全容解明に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「市民としては、身近な場所で覚醒剤の製造が行われていたことに驚いている。大変な捜査だと思うが、安全・安心な社会を実現するため捜査を尽くしていただきたい」との発言があった。

委員から、「薬品さえ入手すれば覚醒剤を製造できてしまうことに危機感を感じている。背後関係も含めて捜査に全力を挙げていただきたい」との発言があった。

(3) 警備部女性専務員研修会の開催結果

警備部長から、警備部女性専務員研修会の開催結果について報告があった。

委員から、「人材不足が続く中、女性中心の研修会を開催することは意義深い。女性が持続的に働けるよう、やりがいや安心感を与えられる勤務環境の整備に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「女性が活躍する組織は必ず成功すると思っており、素晴らしい取組である。ロールモデルは周囲の女性職員にとって大きな力となる。私も若い頃は先輩女性教師から多くのことを学んだ。今後も積極的に女性活躍の取組を続けていただきたい」との発言があった。

委員から、「将来的に女性の本部部長や警察署長等が誕生するように

女性の採用・幹部への登用拡大を進めていただきたい」との発言があった。

(4) 令和5年度中国四国管区内警察拳銃射撃競技大会の結果

警務部から、令和5年度中国四国管区内警察拳銃射撃競技大会の結果について報告があった。

4 その他

本部長から、「委員説示で、計量の日にまつわる科学技術の進歩等についてお話を伺った。警察組織において、科学技術の発展は、犯人側による技術の悪用につながるとして悲観的に捉える傾向が少なくない。しかし、DNA鑑定や防犯カメラ映像の捜査への活用からも分かるように、科学技術の発展は警察にも恩恵をもたらしており、今後はAIの活用も含め、新たな技術の発展を積極的に取り入れていく姿勢が大事になってくる」との発言があった。

以上